

平成22年度 北海道造園懇話会第1回幹事会次第

日 時 平成22年3月5日(金) 16:00～

場 所 札幌市環境局みどりの推進部 会議室

議 案 平成22年度の事業について(アンケート結果を踏まえて)

①北海道造園懇話会50周年アンケート集計結果

②アンケートに寄せられた意見

③アンケート集計結果及び意見を踏まえて

④次回幹事会の開催について

- ・次期幹事会の開催時期について
- ・次期幹事会の幹事以外の出席者について

北海道造園懇話会 50周年アンケート調査結果を踏まえ

1. 50周年記念事業

(1) 記念事業内容

ア～記念祝賀会とする。

- ・ 50周年記念として、会報の記念誌の作成
- ・ 一般人も参加可能な講習会等（パネルディスカッション等）の開催
- ・ 記念植樹、花植え等による会のPR

(2) 記念事業実施方法

ア～当会のみで実施

- ・ 内容により他の団体と合同で実施

(3) 記念事業の資金

ア～本年度の予算の中で実施

- ・ 基本的に本年度の予算の中で実施し、場合により臨時会費や参加費用を徴収したり、広告収入による

2. 今後の北海道造園懇話会のあり方

(1) 今後の会のあり方

ア～現在のままで継続する

- ・ 基本的には現在のままで継続するが、単に今までどおりではなく見学会の代わりとして、義務的開催ではなく一般の方やNPO及び若い造園関係者が関心を持つ講演会の開催や会をPRするボランティア活動

(2) 今後、会として取り組むべきこと（10人以上選択項目）

- 1～会員相互の親睦を計る
 - 3～造園に関係のある名士の講演
 - 4～既成公園に関する研究及視察・観賞
 - 5～機関誌及刊行物の発行
 - 8～建築家、彫刻家、デザイナー等と造園家との連携
- ・ 会員の造園知識及び技術の向上（3、4、5、8）及び（2、7）
 - ・ 会の広報活動（5、講演会等）

(3) 今後の会の運営

ア～現在のままで継続する

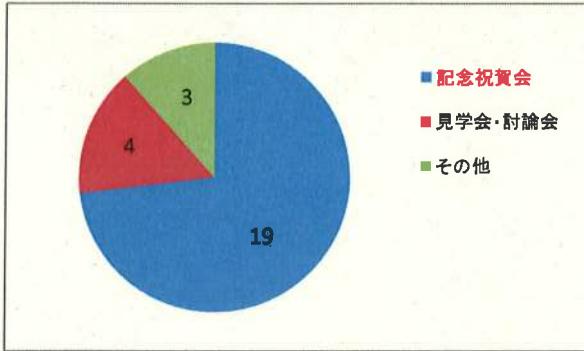
- ・ 意見を附された方は、皆イを選択しており、貴重な意見として尊重すべきであり、一定の変更は必要ではないか
- ・ 今後の会のあり方や取り組み（講演会、ボランティア活動等）により、運営についても、一定の変更が必要ではないか

北海道造園懇話会50周年アンケート調査集計表

1. 50周年記念事業

(1) 記念事業内容

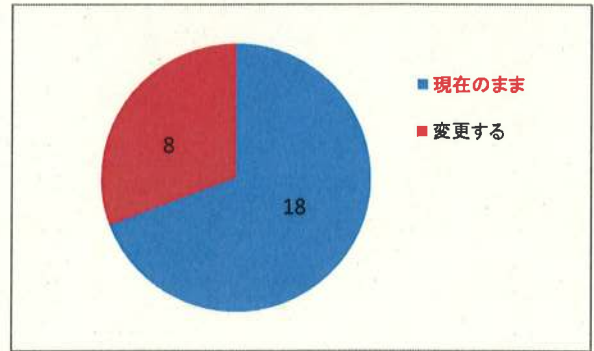
ア 記念祝賀会(産学官代表者によるパネルディスカッション等)	19
イ 歴史ある公園の見学会・討論会(函館市1泊等)	4
ウ その他	3
計	26



2. 今後の北海道造園懇話会のあり方

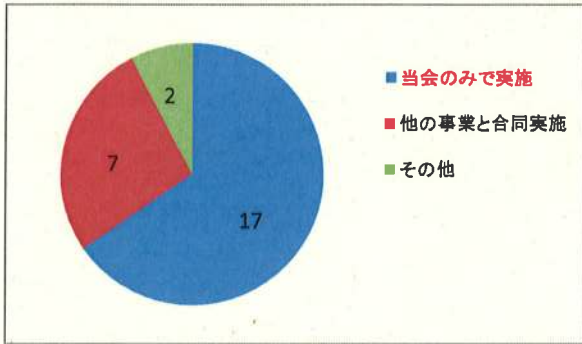
(1) 今後の会のあり方

ア 現在のままで継続する	18
イ 社会状況の変化を踏まえ変更する	8
計	26



(2) 記念事業実施方法

ア 当会のみで実施する	17
イ 他の事業(講習会、研修会等)と合同で実施する	7
ウ その他	2
計	26



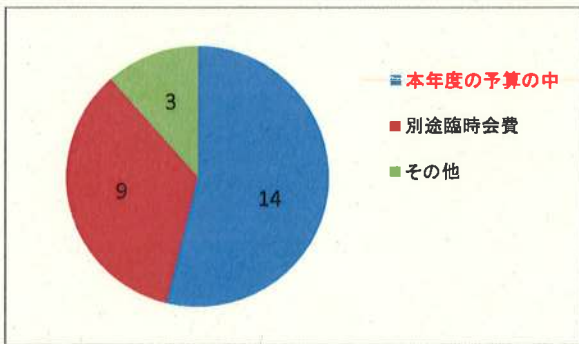
(2) 今後、会として取り組むべきこと(複数選択可)

1 会員相互の親睦を計る	21
2 各種庭園設計並びに造園管理の研究	8
3 造園に関係ある名士の講演	13
4 既成庭園に関する研究及視察・観賞	15
5 機関誌及刊行物の発行	12
6 学校庭園の整備及指導	3
7 庭園関係材料の研究	9
8 建築家、彫刻家、デザイナー等と造園家との提携	11
9 自然公園及都市公園並に団地住宅の造園計画の研究	7
10 その他	4
計	103



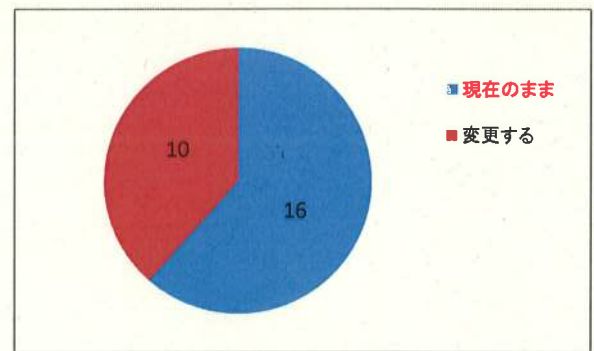
(3) 記念事業の資金

ア 本年度の予算の中で実施する	14
イ 別途臨時会費を徴収し実施する	9
ウ その他	3
計	26



(3) 今後の会の運営

ア 現在のままで継続する(北海道又は札幌市が幹事長)	16
イ 社会状況の変化を踏まえ変更する	10
計	26



北海道造園懇話会50周年アンケート調査集計表

1. 50周年記念事業

(1) 記念事業内容

- ア 記念祝賀会(産学官代表者によるパネルディスカッション等)
- イ 歴史ある公園の見学会・討論会(函館市1泊等)
- ウ その他

19
4
3
計 26

計

意見等

1	ウ	外部へのアピールを考えるか、身内の慰労=50年おめでとう、にエネルギーを注ぐか、により答えは違ってくると思います。 前者なら、メディアが取りあげるイベント=例えばボランティアやコンテストなどが浮かびます。後者なら、ゆっくり癒すのが良いでしょう。
2	ウ	内輪で完結させるのには疑問あり。 エンドユーザーに対して感謝の気持ちを込め、本会及び会員が所属する団体をPRできるような社会貢献的の事業を行ってはどうか。
3	ウ	現在、細々と年1回の見学会、新年会、会報の発行しか出来ていない状況であり、あまり欲張った企画は大きな負担になるので、50年を振り返りこの先を展望する充実した記念誌の発行に的を絞って取り組むのがいいのではないかと。見学会、新年会はそれぞれ、50年記念にふさわしい取り組みを目指したいがあまり無理は出来ないうでしょう。 ・記念誌のイメージ : 会報の拡大バージョン ・記念誌の発行体制 : 幹事も入った委員会を作って今すぐ活動開始。OBの参加をお願いする。 ・記念誌の発行資金 : 資金は広告収入と現繰越金(ここで金をつかう。) ・記念誌の発行内容 : 50年を回顧する座談会等、これからの50年を展望する座談会等 関係年表の作成、関係者名簿の作成、エポックメイキングな出来事の洗い出しとそれに関するの回想記等々 見学会は止めて、講演会(パネルディスカッション含み)とし終了後記念植樹を実施 新年会は50年誌出版祝賀パーティとする。
4	ア	記念事業検討委員会を立ち上げ具体的な検討に着手する。 委員には歴代の幹事長、事務局など各界を代表とする人選をする。
5	ア	本会創設時には「北海道の造園」が言われておりました。 造園資源から設計・施工、作品に至るものについて研究することが目的とされておりました。 このことを踏まえて、開道150年余、道内の歴史的造園を見直し、或いは、北海道らしい作品を見て廻ることも必要でしょう。 また、札幌パークホテル(施工当時の名称は三愛ホテル)は本会の主要メンバーが設計・施工管理を担当いたしました。 本年、50周年ということで、会員だけではなく、広く市民にも呼びかけて、記念事業(シンポジウムやパネルディスカッションetc.)を開催しては如何でしょうか? 他の団体との共催事業でも結構でしょう。

(2) 記念事業実施方法

- ア 当会のみで実施する
- イ 他の事業(講習会、研修会等)と合同で実施する
- ウ その他

17
7
2
26

計

意見等

1	ウ	外部へのアピールならば“イ”がありえますし、身内だけなら“ア”でしょう。
2	ウ	当会が主体となって、事業内容によって他の事業、場合によっては他の団体と合同で実施しても良いのではないか。
3	ア	提案した内容からして懇話会主体で実施すべき。1(1)意見3
4	イ	2009年7月5日に開催された「ランドスケープシンポジウム2009」のような共催方式の記念事業は如何でしょうか。

(3) 記念事業の資金

- ア 本年度の予算の中で実施する
- イ 別途臨時会費を徴収し実施する
- ウ その他

14
9
3
26

計

意見等

1	ウ	一部予算の中で考慮し不足分については臨時徴収する。
2	ウ	これも、目的により決まってくると思います。1(1)意見1
3	ア	本年度は研修を取りやめ、その予算を記念事業費に回せばそれなりのことはできるのではないか。記念事業を行うとなれば準備に時間を要するし、ひとつの事業に集中してはどうか。 ただし、研修費の支出に参加費収入が含まれており、予算が不足するのであれば、臨時会費を徴収しても良い。
4	ウ	現在の手持ち資金と広告収入で実施。
5	ア	本年度予算で元金を予算化して、不足分は参加費を徴収することがよいと考えます。臨時会費徴収は、個人会員が多く事務手終料も必要となりますので、困難ではないでしょうか。

2. 今後の北海道造園懇話会のあり方

(1) 今後の会のあり方

- ア 現在のままで継続する
- イ 社会状況の変化を踏まえ変更する

計

18
8
26

意見等

1	イ	社会情勢は、大きく変化しつつあり、造園業界を取り巻く環境も構造的変革を迎えている。時代変化に対応した変更が求められる。
2	イ	造園学会に統合する。 ただし、その場合、準会員のな枠組みを用意し、現場技術者が参加しやすい雰囲気を提供すべきですね。
3	イ	(1)で回答したとおり。 産官学の垣根のない親睦のあり方は継続していただきたいが、エンドユーザーを意識した事業・活動を取り入れてほしい。1(1)意見2
4	イ	造園学会ができたことで役割が薄れたことは否めないが、産官学のよりアカデミックでない部分、より現場的な部分での情報交換、情報交流の場として今後も必要である。 これまで主体であった北造協関係者、コンサル及び公務員の内役職者、に加えて、若い人、特に札幌市の公園関係職員、また、公園の運営管理参加しているNPOの関係の方たちの参加が求められる。 そして、そのような方たちが興味を持って参加できるよう、行事の持ち方を変えていく必要がある。
5	イ	各界の著名な方も会員として居られるのですから、「造園」なり「緑の環境」等をテーマに産学官の討議の場を定期的に来れないものか。 予算的なこともあるので、費用をかけないで開催できると良いですね。 テーマは一年間とし、月1回程度(土曜日)の定期開催で意見のある会員が集うようにして、総会で成果を発表するようなものが出来れば。
6	イ	厳しい社会情勢を踏まえて、官と業の接点を極力減らすべき(親睦)との意見が多くあるのが実情です。
7	イ	「懇話会のあり方」や「会発足の経緯」でも危惧していたが、このような集まりは主体的に活動していた人がいなくなることで、ややもすると設立された当時の熱い思いはだんだん薄れて尻つぼみに成り事がある。 現状は登録会員は多いものの、造園業界が元気がないこともその要因ですが「会報の発刊」と「新年交礼会」と「見学会」を義務的に行っているような気がする。 現在の行事は継続するとしても、もっと熱い思いを語ったり、講演会を開催するなど規模は小さくても良いから活性化した会にしたいと思う。
8	ア	運営のあり方、事務局(現在、北造協)を他の組織に移す。など、ご意見があるようですが皆様でご検討頂いて決定しては如何でしょうか。

(2) 今後、会として取り組むべきこと(複数選択可)

1 会員相互の親睦を計る	21
2 各種庭園設計並に造園管理の研究	8
3 造園に関係ある名士の講演	13
4 既成庭園に関する研究及視察・観賞	15
5 機関誌及刊行物の発行	12
6 学校庭園の整備及指導	3
7 庭園関係材料の研究	9
8 建築家、彫刻家、デザイナー等と造園家との提携	11
9 自然公園及都市公園並に団地住宅の造園計画の研究	7
10 その他	4
計	103

意見等

1	<p>事業ではなく、姿勢を見定めることはいかがでしょうか？ 例えば、研鑽の場なのか、外部へアピールする場なのか、絞り込んで議論しないと、できることが残って、やるべきことが飛んでいってしまうような気がします。</p>
2	<p>5に関しては、外部からも情報を得られるように取り組んではどうか。 7に関しては、北海道独自の発信で北海道造園界の発展・優位性に寄与するようなテーマがあれば取り組むべき。 10に関しては、「造園」が扱っている幅広さをエンドユーザーにPRする取り組みが必要ではないか。</p>
3	<p>公園緑地及び都市近郊林の管理運営、利活用に関する情報交換及び視察。 単なる施設見学だけではなく花植え、球根埋め、植樹、ササ刈りなどの体験活動。 ある場所を使っての花壇づくりなどのパフォーマンス活動。 月1回くらいのペースで造園関係各界で活躍している人、いた人から話を聞く会。</p>
4	<p>各種記念事業や時代を背景にしたシンポジウムなどを主催すること。 イメージ的には、今年度行った大通公園100年記念事業などが近い。 こうした事業を懇話会という立場から発想して、事業を進めることも必要なのではないか。 懇話会は官民の区別のない個人の集まりなので、人材も豊富であり、いろいろなところから協力をもらいやすいのではないか。 50周年はひとつの節目なので、懇話会が中心となって大きな大会を開いたらどうか。</p>
5	<p>北海道の造園、特に造園技術の継承をしていかなければならないと思っています。 その為には各界の力のある方々の支援を頂いて(会を使って)その努力を継続的に進めなければならないと思います。 私は今現在造園業界の中にいませんが、外から見ると、「産」の造園技術は今後どうなるのか不安です。(偏った意見かもしれませんが) 懇話会の力を借り盛り上がるようになればよいと思います。</p>

(3) 今後の会の運営

ア 現在のままで継続する(北海道又は札幌市が幹事長)

イ 社会状況の変化を踏まえ変更する

計

16
10
26

意見等

1	イ	よろしくご指導をお願いしたい。 公平な会の運営が継続されている、期待しております。 事務局についても是非協力とご指導をお願いします。 継続は、大きな力、大きな希望と夢、明日への力仲間達
2	イ	官と民との関係が変わろうとしている。産官学民、中でも市民との関係構築は喫緊の課題。 官主導とも受け取られる体制を保持する合理的理由が見いだせない。
3	イ	造園学会に統合です。
4	イ	北海道、札幌市に限定せず、構成員の中から選出する方向で検討しては如何でしょうか。
5	イ	社会情勢の変化を踏まえる、ということではなく、産官学の垣根なく円卓会議的に運営してきたことに本会の意味があると思うので、コンサルタント業、造園建設業、施設業などの会員も持ち回りで幹事長を務めてはどうか。
6	イ	会の趣旨から考えると今造園学会が目指している方向と一致している気がする。 学会の北海道支部は官と産からのより積極的な参画を求めている。 難しいかもしれないが、学会の支部に事務局を置けないだろうか。 道庁は近々造園の専門職が居なくなるかもしれないし、発注官庁に幹事をゆだねるのはそろそろやめたほうが良いと思う。 現在北造協で事務局を引き受けてもらっているが個人的に負担をかけていて心苦しい。 会の目的が美しい北海道創りであることを考えるとNPO法人「ガーデンアイランド北海道」に事務局を引き受けてもらうという選択もあるのでは。
7	イ	厳しい社会情勢を踏まえて、官主導ではなく、業界主導の組織づくりを求める声が多かったです。 新技術や工法、低管理コストに向けた業界主導(提案形)への転換が望まれているようです。